

# 2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード VF1	科 名 II部服装科1年	単 位 1
科目コード	科目名 服飾デザイン論 I	授業期間 全7回

担当教員(代表): 小島 有紀	共同担当者: -
-----------------	----------

教育目標・レベル設定など

**教育目標** : 服飾デザインにおいて基礎となる「色彩」を見る力や分析する力を養い、講義及びカラーワークを通して実践する。

**レベル設定** : 色彩学の基礎知識や基本的な配色理論を習得し、ファッション業界で色彩を展開する方法を学ぶ。

【授業計画】 テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

## ●服飾デザイン概論・オリエンテーション (1コマ)

- ・服飾デザインにおける「色彩」/ファッションにおける「色」の活用と展開
- ・カラーカード(ベーシックカラー140、カラーチャート140)の取り扱いと準備

## ●色彩の基礎 (1コマ)

- ・色彩の性質と体系
- ・有彩色と無彩色/色の三属性(色相・明度・彩度)
- ・トーン/純色・清色・濁色・トーンの成り立ちとイメージ表現
- ・カラーシステムについて

## ●色彩とイメージ (1コマ)

- ・色によるイメージ効果
- ・色相と温度感/明度と重量感・硬軟感/彩度と強弱感・派手地味感
- ・色と連想/色と象徴

## ●カラーコーディネーション(配色技術) (2コマ)

- ・色彩を基準にしたカラーコーディネーション(同一色相・類似色相・中差色相・対照補色色相)
- ・トーンを基準にしたカラーコーディネーション(同一トーン・類似トーン・対照トーン)
- ・カラーワーク作品(コントラスト配色)

## ●色彩の科学 (1コマ)

- ・光と色彩/光の色・物体の色/色の見え方
- ・三原色と混色(減法混色と加法混色)

## ●色彩の基本まとめ・活用について (1コマ)

- ・色彩の識別まとめ(色相・トーン)・色感/色の対比の基本的な見方
- ・配色のまとめ
- ・ファッションビジネスにおける色彩の活用ポイント/流行色・パーソナルカラー/カラーユニバーサルデザイン

\*上記の内容を、講義や実習を織り交ぜながら進める。

## 評価方法・対象・比重

- ① S~C・F評価/評価基準: 学業評価50%(提出物や作品課題の内容評価)  
授業姿勢50%(出席状況、参加姿勢、提出物の提出の有無)

## 主要教材図書

文化ファッション体系 服飾関連講座⑨ 『服飾デザイン』文化出版局

参考図書 なし

その他資料 ベーシックカラー140・B5版(日本色研事業株式会社)  
カラーチャート140

## 授業の特徴と担当教員紹介

- ・J-color 主催 CUD 関連各種セミナー 担当講師
- ・J-color 主催 色彩活用パーソナルカラー検定 講師認定講座 担当講師(講師育成)
- ・企業、専門学校、大学、社会人向けの色彩講座やパーソナルカラーの実践講座を幅広く担当

記載者書名欄 小島 有紀

# 2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード VF2	科 名 II 部服装科2年	単 位	2 単位
科目コード	科目名 服飾デザイン論Ⅱ	授業期間	2025/5/28～/10/15 2025/10/22～2026/2/25

担当教員(代表)：布施伊織	共同担当者：
---------------	--------

## 【授業概要、到達目標・レベル設定】

1 年次にメインで学んだ色彩の基礎に加え、形態や構成、それらの組み合わせによるファッションイメージの創出などの講義・演習を通じて、自身がイメージするデザインの方向性を視覚化するためのスキルを養う。

【授業計画】テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

テーマ	方法	コマ数
デザインとは(オリエンテーション) / 色彩論の復習	座学	1
色彩の感情効果・流行配色	座学・実習	2
造形論、形の展開 / コンポジション / デザイン論的観点による素材	座学・実習	2
歴代ディオールデザイナーの PLANNING 分析	座学・実習	2
ファッションイメージの分析・構築	座学・実習	2
色彩計画(カラープランニング)	座学・実習	2
最終課題説明	座学	1
最終課題制作実習	実習	2

## 【評価方法】

出席率、授業内課題、最終ポートフォリオ制作課題

## 授業の特徴と担当教員紹介

四大卒後、文化服装学院アパレルデザイン科卒。アパレル企業勤務を経て、アスリートマネジメントを行う会社に8年間勤務。日本美術・西洋美術の知見を用いて美術・デザインを分析的に見る視点をもとに、デザインの方法論を考察・一般化して学生に届ける。

主要教材図書 文化ファッション体系 改訂版・服飾関連専門講座『服飾デザイン論』文化服装学院編

参考図書 『ファッション色彩Ⅰ』『ファッション色彩Ⅱ』(一財)日本ファッション教育振興協会編

その他資料

記載者氏名 布施伊織

# 2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	21102	科 名	Ⅱ部服装科2年	単 位	1単位
科目コード	51120	科目名	ファッションデザイン画 Ⅱ	授業期間	(半期組交代)

担当教員(代表)：橋本 定俊	共同担当者：
----------------	--------

## 【授業概要、到達目標・レベル設定】

画材研究による彩色表現の広がりとテクニックの上達を目標とする。

## 【授業計画】

テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

- ・画材研究・ノーマーカーによる彩色テクニックの習得 <2コマ>
- ・画材研究・ノパステルによる彩色テクニックの習得 <2コマ>
- ・マイコレクション／着装表現とデザインバリエーション展開  
就職活動にむけてのポートフォリオの作成方法 <3コマ>

## 【評価方法】

課題作品による評価 評価基準:学業評価75%、授業姿勢25%

## 授業の特徴と担当教員紹介

担当教員 橋本定俊

ファッションデザイン画のテクニック向上に加え、担当教員のアパレル業界でのデザイナーとしてのキャリアと知識に基づく、学生の未来に視点を置いた学習内容と指導になっている。

担当教員は、大学卒業後、文化服装学院アパレルデザイン科を卒業。(株)BIGI、(株)ワールド、タケオ・キクチのアシスタントデザイナーを経て、(株)イトキンでオリジナルブランドを設立、その後 文化服装学院、文化学園大学で、ファッションデザイン画、ファッションイラストレーションの講師を務めている。(株)STHM 代表。

## 主要教材図書

## 参考図書

## その他資料

記載者氏名 橋本定俊

# 2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード VF	科 名 II 部服装科 2 年	単 位	1 単位
科目コード 304020	科目名 服飾手芸 II	授業期間	半期組交代

担当教員(代表)：齊藤美子	共同担当者：
---------------	--------

## 【授業概要、到達目標・レベル設定】

服作りの発想の可能性を広げる新たなテクニックの習得し、立体造形・装飾表現の新しい発想につなげる。  
併せて実際の商品に取り入れた作品を調査し、服作りに応用発展できることを目標とする。

## 【授業計画】

テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

### 1 エンブroidアリー、レース (6コマ)

布加工の技法や刺繍の表現・レースの技法を各種演習し、テキスタイル的に布に様々な表情をつける方法を習得する。

- ① シャーリング (布を縮める技法による表面効果を習得する)
- ② キルティング (布を膨らませてテキスタイルを作る方法を習得する)
- ③ リボンワーク (リボンを素材とした数々の技法(バラ、小花)にあわせて立体的に装飾する技法を習得する)
- ④ ニードルポイントレース (レースのテクニックの中の針を使ってレース表現をする基礎テクニックを習得する)
- ⑤ ファゴティング (布と布の相田に糸でかがりを入れ、透かし模様を表現する技法を習得する)

### 2. マップ製作 (1コマ)

①～⑤で製作した作品をマップの形に完成させる。

実際の商品に取り入れた資料を調査収集し、添付する。

授業方法 講義と演習

## 【評価方法】S～C・F評価 制作物・授業態度による評価

作品：授業態度・出席状況＝8：2

主要教材図書	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ 手芸
参考図書	THE ART OF Manipulating Fabric (Colette Wolff)
その他資料	実物標本、段階標本

授業の特徴と担当教員紹介 オリジナルバッグブランドを立ち上げ、物づくりの活動経験を活かし、服作りの発想の可能性を広げるためにテクニック、立体造形・装飾表現の技法を講義と実習をとおして実施。

記載者氏名 齊藤美子